

第4回横浜国際港都建設審議会（第2部会）

平成17年10月5日（水）

《出席委員》小林重敬委員（部会長）、飯沢清人委員、加納重雄委員、黒川勝委員
志村善一委員、高梨昌芳委員、トイ チャールズ ファウラー委員、萩原なつ子委員、
ベルテア イワティ チャンドラウィ委員、森敏明委員、横山正人委員、吉村恭二委員
＜欠席＞岡部明子委員、長谷川まや委員

議事

【部会長】 それでは、時間になりましたので、第4回の第2部会を始めさせていただきますと思います。

先ほど第2回総会で、起草委員会としてのまとめを明石起草委員長より発表がございまして、これから後半に入って具体的な最終的なとりまとめにかかるところになってございます。今回の第4回と次の部会あたりがおそらく一番大きな山場になると思いますので、ぜひ活発なご議論をいただければと思っております。よろしくお願いいたします。

それでは、先ほど既に資料説明は一通り終わっておりますので、いきなりでございますけれども、議論に移りたいと思います。

資料4が、先ほど明石起草委員長からご説明いただいたように先日、部会長と明石委員長が集まって意見交換したものを事務局がまとめたものでございます。このようなまとめが第2部会としてのこれまでの議論のまとめとして適切なものかどうかということについてご議論いただきたいと思っておりますし、さらにこの資料4の左下にあります、先ほど明石委員長から細かく説明がございました「起草委員会における論点や、さらに審議を深めるべき視点」というのが提起されてございます。これについて特にご意見をいただければ、次回の起草委員会で議論する材料になりますので、よろしくお願いいたします。

ただ、これに関連して皆様のお手元に委員からご意見をいただいております。まず、冒頭に委員からご意見をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

【委員】 今日の午後、急いでワープロを打ったようなことで十分考えないままのメモでございます。先ほど明石委員長にもご意見として申し上げたことと非常に重なるところでございますが、資料2「状況の変化」では、少なくとも私たちの地域社会が、グローバル化がもっと進展をするだろう、そういう意味で多様な文化背景を持つ人々が生活し学び働く実態が増大をするだろうということの予測が、入っていない気がしたものですから、そ

こをひとつ触れておく必要があるのではないかとということが1つ。

それから、それと関連しまして、地域社会そのものがさまざまな価値観、文化などが混在するいわゆる「多文化社会」というのが出現して、多文化共生社会の形成に向けて市民、行政の意識、制度の改革が大きな課題となるでしょうというふうな個人的な見解として書きました。言いかえれば摩擦も非常に増大するでしょうし、大変さまざまな課題が山積をしてくると同時に、大きいテーマでは共生社会というものが非常に大きなテーマになってくるだろうと思います。

それから、表現のことで恐縮ですが、「横浜らしさ」というのは、ほかの都市を見ますと名古屋らしさとか札幌らしさとか、みんな「らしさ」が出てくるものですから、どういう表現の仕方をしていいのかなと思いましたが、私は「らしさ」という表現よりも、むしろ例えば「横浜の個性」というような言い方で表現したほうがまさしく個性的なのかなというふうに思ったので、そういうコメントをしておきました。

それから、先ほどもお話が出ましたが、先ほど会が終わった後も明石委員長のところへ行って、「国際人」という表現について少しなじまないかもしれませんが、どうしたらいいのでしょうかというふうに申し上げたのですが、「地球市民」というのも歯の浮いたような言葉でございますが、むしろ「国際人」というよりもそっちのほうがいいかなという気がいたしました。「国際人」というのはちょっとどうかなということでもございました。ここにも書きましたように私自身のイメージとしては、「国際人」という表現は海外とか外国とかというものに精通をしている、まさしく明石委員長などが典型的な国際人なのだろうというイメージを持つでしょうが、国を越えるとか、あるいは地球規模の課題とか文化交流とか協力などに行動したり、必ずしも海外に関係を直接持つとかということではなくてもいいのではないかと。むしろ意識が開かれたという意味で、「地球市民」というものがふさわしいのではないかと。ただしこれも言葉としては十分練れていませんので、果たしていかがなものかと思いますが、「国際人」という言葉に関しての問題です。

それから、「国際都市横浜」という表現も再考してはどうかと思いますと申し上げました。特にその上で再定義する際に、実はまさしく国連から「ピースメッセンジャー都市」として私たちは称号をいただいておりますし、今朝の新聞にも子供たちがピースメッセンジャーのミッションとして国連に行くなど書いてありましたけれども、そういうことを含めて「ピースメッセンジャー都市」とか、あるいは「多文化共生都市」とか、そのようなことにかかわる、またその特色があるというようなことを強く押し出しているのではないかと。

と思いました。

それから、これもここに書いてありますが、「外国人労働者の問題」という表現は、いわゆるブルーカラーを想定しているような印象で、これは私の印象でございます。たくさんここに書いてありますように、さまざまな知的な分野で外国人が現実には働いていますし、今後ますますその数が増加するのではないかと。そういう意味では「労働者」というのはちょっとどうかと思いましたが、そのことを思いました。私は個人的にはですが、もしできれば、こういう長期ビジョンができたとき、私たちの憲法みたいなものですから、これをやはり日本語だけではなくて英語なりそのほかの言葉に訳してみたほうがいいのではないかと。他都市にも発信したほうがいいのではないかと。そのときに今申し上げたような言葉が英語とか何かに訳したときになじまない言葉だなという気がしましたので、そういう外国語に翻訳する際にどういう言葉がふさわしいかという視点も考えた表現の仕方があったらいいのではないかとということも思いました。

大変恐縮でございますが、以上でございます。

【部会長】 ありがとうございます。大変適切なご意見をいただきました。具体的に、例えば「国際人」というのが実は冒頭に出てくるのです。それが明石委員長のご意見も委員のご意見も必ずしもなじまないのではないかとのご意見がございましたが、この辺をどう表現するか、この第2部会だけの責任ではないのでしょうかけれども、全体としてあるいは起草委員会でも議論したいと思いますが、もしご意見が関連してあればぜひいただきたいと思えます。委員のご提案は「地球市民」という言葉がどうかというとりあえずのご提案ですね。いかがでしょうか。

むしろ私は、先ほど委員が、意識が開かれたという言葉は何かうまく使えないかなという感じなのです。地球あるいは国際、そういうものに意識が開かれた人々が暮らす町。あまり「国際人」とか簡単にまとめないほうが、あるいは適切な表現になるのかなと。

【委員】 私もさっき明石委員長には、1つの名詞、1つの単語で言うのは難しいから、何か形容詞を使った表現をしたほうがいいのでしょうかなどというお話もしていたのです。

【部会長】 どうでしょうか。あまり深入りしてもどうかと思えますけれども、いかがでしょうか。

【委員】 英語で「コスモポリタン」という単語がありまして、今、辞書で引いたら「世界主義者」という単語が出てきましたが、どうでしょうかと思って。世界的な出来事とか世界からの文化を意識している人という意味です。

【部会長】 世界主義者と言われると、主義をかざしてやっているような感じがするので、ちょっと違う感じがします。むしろ世界、地球あるいは・世界に意識が開かれた人々というような形容詞のほうが、国際主義者を表現するにはいいかなと、私、今の言葉から感じました。

【委員】 私は国際というのは世界の人たちと仲よくできることだと思っています。あるいは友達になれること、これが国際人だと思っています。したがって、言葉でなくて中身だと思っております、仲よくなるとか親しくなるとか、あるいはお互いに認め合うとかというのは何なのかを考えるべきだと思います。例えば人種による偏見はしない。そういう考え方は横浜市民は持たないとか、世界の貧しさをなくすことに私たち横浜市民は心して一致してそういうものに向かっていきます。例えばそういうことが国際人、国際という意味だと私は思うのです。したがって、それをどのように表現するかは「国際」という言葉でも何でもいいと思うのでありまして、そういう1つの概念みたいなものを皆さんで考えればいいのではないかと思います。私は心だと思います。ホストする心とか、市民全員がホストします。ホスタビリティというのかな。そういう心の問題だとか物の考え方とかいうのが私は大事だと思っています。

【部会長】 あまりこれだけ議論するわけにいきませんので、とりあえずもしほかに意見があればいただきますけれども、この議論はそういうご議論をいただいたということにして、結論を今出さなくてもいいと思います。また起草委員会でいろいろなご意見が別の部会からも来るかもしれませんので、私のほうから今、部会で出された意見を報告してご議論させていただきたいと思います。

ほかにご意見はございますでしょうか。

【委員】 先ほどの総会から今のお話を聞いているのですけれども、国際都市あるいは世界から評価される都市あるいは国内から評価される都市というのが出ていますが、一方では我々は、税金を払って都市の活性化というものを施策として展開しなければいけない。世界から選ばれるために価値を高めなければいけない。例えば今、横浜はサミット誘致に手を上げています。大阪や京都あるいは関西の方々や都市と競争しなければいけない。ということは、やはり横浜の都市としての価値を高めるには、ある程度の競争に打ち勝つための基盤整備やら優位やらそういうものを持たなければいけないと思います。情報化ということで先ほど話が出ていたのですけれども、やはりそれだけの都市に住んでいるということを自覚しながら、競争するだけが横浜の値打ちではなくて、いかに世界に貢献しながら

ら、あるいは日本の他都市からもそれなりの評価を受けながら、あるいは支援を受けながらやっていくかというのが横浜のおそらく宿命ではないかというような感じはしております。

だから、例えばこの起草委員会の中で2番目にあります「国際機関や会議場などを、都市競争力の強化や魅力づくりに貪欲に」……。「貪欲」という言葉はいかかな表現かとも思いますが、ある程度、日本の中の横浜という位置づけもしながら横浜の都市像を定めていく必要があるのではないかと。先ほど個性が発揮される都市横浜。大変結構です。それが全体として日本の中で横浜という存在価値を高める方向で、それはまた都市間競争に打ち勝つという方向で盛り上げていく必要があるかと思っておりますけれども、その視点だけぜひ入れていただきたいと思っています。

【委員】 素朴な質問ですが、今、「国際都市」とか「国際人」とかいろいろ出ています。今、横浜市民357万人いると思うのですけれども、その中で国際都市という定義を理解できる人がどのぐらいいるのでしょうか。国際都市横浜と言うには、横浜の生産力がどのぐらいとか、横浜に住んでいる人たちの所得がどのぐらいあるとか、また、国際人とは、海外へどのぐらい行っている人とか、外国の人とこのぐらいつき合っている人など、そういう何か定義みたいなものがあるのかどうか。国際人や国際都市のすべてをわかるような人というのはなかなかそういないと思います。だから、今、国際人とか国際都市の定義をいろいろ話されていますけれども、あまり難しく解釈されないように、わかりやすく表現できればいいのではないかと思います。

【部会長】 今のご議論は、必ずしも海外に何度も行っているとか、海外をよく知っているとか、そういうことが国際人ではなくて、例えば地球問題をちゃんと考えられる人、環境問題を考えられる人もある意味で、先ほど委員がおっしゃった地球市民だろうと思います。幅広いさまざまなグローバルな問題とか、あるいは国際間の問題とか、そういうものに意識が開かれている人、そういうことを目指しましょうということです。

【委員】 国際都市横浜というような表現の下にそういうわかるような表現が必要ではないかと思えます。

【部会長】 そのように思います。

【委員】 私は個人的な意見ですがけれども、すべての人の人権とか生きることが保障される、あるいはそれをきちっと守って育てていく、相互に尊敬していくということがとても重要だと思います。ですから、日本人同士がお互いに助け合うだけでなく、国というも

のを越えて、基本的に人と人が尊ばれる、あるいは尊ぶ人として育っていく。これがある意味では普遍化した形で私は、国際人というか、地球市民というか、というものであると思います。自分のところを飛び越えて非常に壮大なあるいは広大なことを考えるだけではなくて、地域社会に今いる、そばにいる人たち、たまたまこれは外国籍の人たちが多いわけですが、その人たちがほんとうに相互に尊ばれ、人として尊ばれていく社会であることが必要だと思います。そのようなベーシックな基本的な部分を抜かして国際人とか地球市民などあり得ないという意味では、やはり「意識が開かれた」という言葉が十分でないかもしれませんが、その点はどこかで、いわゆるワンフレーズでなくて、もうちょっと書き加えておいたほうがいいかなと思って勝手なことを申しあげましたので、どうぞよろしくお願いいたします。

【委員】 委員が先ほど言われたやはり形でなく心、人を思いやる、また他人の痛みがわかる、そういう人の集まりが多い、横浜市にはあるよというような、外見ではなく人間の内面のものですよね。そういう都市というものを目指す必要があるのではないか。今は通常、人に求めるばかりで、お互いを思いやる心というのは非常に希薄になっていると思うのです。ですから、特に横浜ではそういうものを目指していこうよ、これからは、人を思いやる、他人の立場を考える、そういう都市でありたい、してほしいなと思っております。

【部会長】 ありがとうございます。

【委員】 私、あるところで国際機関が集積している横浜と言ったから、では、なぜだと言ったのです。実は国際機関というのは、世界食糧機構なり何なり、ほんとうに人間の一番大切な食糧の問題とか農業の問題とか、人々が飢え苦しんでいるところに立ち向かっていこうとする機関なのです。そういうところが横浜にあるということに意味があるのだ。たまたまアクセサリーとして国連の機関がいっぱいあるのだなんて言って、それを喜んでいる時代ではないだろう。私は最もそういう意味で地球的な課題、人間の基本的な問題が満たされていない部分に闘いを挑もうとする人たちの知恵と組織力がある国際機関が横浜にあるということの意味をしっかりと考えておかないと、単に1つのフレーズとして「国際機関があります」みたいなことを言っても意味がないのではないかと思います。そういう意味においてやはり国際機関が都市競争力とか、いわゆる表札としてあるだけではなくて、その中にある意味というものをしっかりと私どもが確信をし、確認をし、そのことが横浜市民の中に具体的に広がっていくということがとっても大切なのではないかと思います。そういう意味では農業の問題とも非常に深い密接なつながりのあるポイントなのではない

かと思いますが、国際機関などの立地している意味というものをしっかりと確認しておかないと、これはビジョンの中に書きませんけれども、お互いに確認をしておかないといけないのではないかと思うわけであります。

【部会長】 ありがとうございます。

それから、先ほど「競争」という言葉が出ましたけれども、私は競争があれば一方で協調がないといけないと思っております、競争と協調というのはある意味で裏腹の関係にあるというのが本来の競争ではないかと思っております。やはり競争は競争であるのだけれども、それはお互いに協調しながら競争しなければいけない。そういうのがほんとうの国際という言葉の1つの意味ではないかと私は思っております。

【委員】 お話をお伺いしてまして、国際人であったり、世界に対して開かれている意識を持っていなければいけないということも大事なことだと思うのですが、一方でやはり横浜市民として、1つキーワードがあるとすれば、誇りを持つということが大事なのではないかと思えます。横浜市民が横浜市民として横浜に住んでいるという誇りを持って海外の人たちと接する、そうすることによって横浜がほんとうに国際化していくのではないかとも思いますし、自分の町さえも愛せないような人が海外に行って、ほかの海外の人たちといろいろと都市間競争の中で勝ち抜いていくとか、協調していくということはちょっと難しいのではないかなとも思います。ぜひ横浜市民としての誇りを持てる、1人1人の市民が誇りを持てる、そんな都市というものを目指す都市像というのも1つ必要のかなと思います。

【委員】 さっきの総会で1つ気づいたのは、こちらの資料4の真ん中のところに「都市像」のところに「環境行動」の項目が1個しかなくて、「施策の方向」の項目にも環境は1個しかないので、もう少し環境行動を重視したほうがいいのではないかと思います。

【部会長】 私も例えば「ピースメッセンジャー都市」という位置づけはあるわけですが、これからアジアを含めて横浜がいろいろなメッセージを出すとなると、環境問題に対してどういう対応をしているかというようなことについてのメッセージを出すことは非常に重要だと思っております。その辺は「持続可能性」という言葉で出ていますけれども、むしろそういうメッセージを出していくことが必要ではないかと思えます。日本の企業というのは環境に対して非常にすぐれた技術を持っております。これからのアジアを含めた地域にとって、日本の持っている環境技術は非常に有効に働かそうとすれば働くことができるものだと思っております、その辺を何かうまく表現できないかなと思っております。

【委員】 「国際都市」という表現は英語では多分あまり合わないと思うので、いろいろな辞書でいろいろな言葉を見てみました。ワールドランクシティとか。ワールドランクシティはレベルが高い都市です。インフラとか何でもレベルが高いのです。それはコンペティション（競争）、アワード（賞）みたいなものがあるのです。だから、レベルが高いのだったらそういうアワードをもらう、そういうこともあるのです。その場合は例えばインテリジェンスシティとしてICTを取り込むことが重要です。国際都市というのは、メトロポリスという幹事だと思いますが、私は皆さんが言っているのに賛成で、やはり心だと思います。外国人がたくさん住んでも心と心が合わないのはよくないと思います。だから、オープンマインドとか意識が開かれるとか、それは大切なことだと思うのですけれども、もう一つすごく気になるのは、これからはグローバルなのです。私は国際都市よりグローバルシティのほうが好きです。世界ではわかりやすいと思います。でも、海外の人で横浜の町を知っている人が何人ぐらいいるのでしょうか。パリだったらみんな知っているのですけれども。だから、これからはグローバルコンペティションをやらなければいけないと思うのです。これからグローバルシティになれば、心も大切ですが、コンペティションが大切だと思います。

【部会長】 おそらく先ほどの発言にあったサミットを開くなどというのも、1つそのステージだと私は思います。ありがとうございます。

【委員】 国際人とか国際都市について、意識が開かれた人物を集めましょうとか、つくりましょうという意見は出たのですけれども、それを具体的にどういうふうにすればいいかという発想として、日本人に対してもしくは外国人に対してのセンシティブティ（感受性）のトレーニングマニュアルをつくれればいいのかと思います。外国人とつき合うために必要なコツ、もしくは外国人のために日本人とつき合うためのコツが書いてあるマニュアルとかをつくったほうがいいではないかと思います。

いろいろな発想があるのですけれども、もちろん外国人に対しての意識を日本人の中で開きましょうだけではなくて、日本人に対して外国人の意識も開きましょうという総合的な方針とか制度も必要ではないかと思います。

【部会長】 わかりました。

【委員】 これで第4回の部会になるわけで、そろそろまとめに入ってくると思うのですけれども、総会でこの起草委員会の第1回の取りまとめのご説明をいただいて3点ほどこの部会にもかかわる問題といたしますか、意見を言わせていただきたいと思います。

まず1点目ですけれども、前回の部会でも申し上げたかと思うのですけれども、最終的な取りまとめを具体的な表現にするのか、それとも包括的な全体的な表現にするのかということですが、今日いただいた資料の横浜市の基本構想、昭和48年に議決したものは全体を網羅しているのですけれども、具体的な表現に欠けるような気がするのです。非常に大きな提言ですから、一々細部にわたっての具体的な表現というのはなかなか難しいかと思うのですが、最終的に市民が手元に受け取ったときに、いろいろな解釈ができるような表現であっては困るわけで、全体的な表現があつたにしても、その中に具体的な事例であるとか、あるいは表現であるとかというものが細かく出ていたほうが、より市民の理解が高まるのではないかと思いますので、今後も起草委員会の中では、ぜひこういった具体的なことについてもご議論をいただいたほうがいいのではないかと思います。

それから、先ほど委員からご指摘がありました外国語訳の問題ですが、私もぜひやるべきだと思うのですが、その際にやはりまず第1に考えるのは、我が国の周辺の国、とにかく隣の国です。具体的に言えば、まず、韓国、中国、ロシアの言葉で訳する。それと横浜は北米航路の始点であり終点でありますので英語訳、そのほかスペイン語であるとか世界的に多く使われている言語、そういったものにも翻訳をする必要があるのではないかと思います。

それから、最後、3点目ですけれども、これは例えば横浜が今、サミット誘致をしておりますし、また以前はオリンピックを誘致しようとした時期もあつたわけですが、そのときに特にオリンピック誘致のときに顕著だったのは、横浜にとってどういうメリットがあるのかとか、経済的な効果はどうであるのかとか、そういう議論に終始しておりまして、本来オリンピックを開催する意義であるとか、あるいは横浜でオリンピックが開催されることの意義とか、そういうものの議論というのが少し足りなかったのではないかという反省を持っております。オリンピックが開催されるということはもちろん世界の平和の祭典を、横浜市民がどれだけホスピタリティーを持って受け入れることができるのかというこういう重要な問題があつたわけですが、むしろ横浜経済にどういう影響があるのかとか、どれだけもうかるかというような話に終始していたような気が私はするのです。今回サミット誘致についても、横浜でサミットが開催されることによって横浜から世界に対してどういうメッセージを送ることができるのか、こういうことがむしろ大切なことではないかと思っております。今回の港都審で議論される内容も、私は集約をすると、横浜から世界に向けてどういうメッセージが送れるかということが一番のポイントになるのではない

かと思っています。

今、横浜市は「ピースメッセンジャー都市」という大きな冠を持っているわけですがけれども、どの都市も世界平和を望んでいない都市なんかないわけで、横浜ならではの、我が国最初に開かれた港であるとか、そういう横浜が送れる我が国唯一のメッセージみたいなものを今後とりまとめていくことが必要ではないかなと思っています。

【部会長】 第1点目のできるだけ包括的、抽象的ではなくて具体的な表現というお話ですけれども、今日の資料4には、先ほどご意見がございましたけれども、施策の方向ではなくて具体化の方向ということで表現が出ているのですが、これは1つ事務局にお聞きしたいのは、最終的な基本構想のとりまとめと、ここで書かれている具体化の方向という記述、施策の方向という記述がどういう関係になるのかということをもっとお聞きして、その上でこの位置づけについて委員のお考えをお聞きしたいと思います。

【事務局】 基本構想は、各都市いろいろ、表現、長さ、分量もともに違いがあります。横浜市基本構想はほかの都市と比べて最小というか、一番短くて、しかも極めて包括的、全体的、理念的な表現になっています。ですから、これを踏襲するかどうかも含めてこれから起草委員会と議論していきますが、もう少し実際には具体的表現を入れたいということになってくるのではないかなというふうに考えています。

具体的なことをどこまで入れられるかというのは、この後これを決めました後、次の5か年計画を議論することになっております。したがって、審議会で出されたアイデアなどにつきましては、この構想に盛り込めればそれにこしたことはないのですが、それ以外のさまざま出されたご意見、また市民からこれから出てくる具体的な意見はできる限り5か年計画の中で、それは実際の実施という前提ですけれども、入れられるものは入れていきたいと考えています。

【部会長】 そうすると、資料4のペーパーにある「施策の方向」、具体化の方向とか表現が変わるのだと思いますが、これはこれからの議論次第でもしかすると構想の中の一部とし表現されるかもしれないというふうに事務局は考えていますか。

【事務局】 今の基本構想にも施策の基本方向とございますが、今日の議論で具体化の方向という形にしていきたいと思っていますけれども、こうしたものも入れていく形になります。

【部会長】 その上で委員どうですか。

【委員】 今から10年ぐらい前にちょうど国が地方分権を具体的に動き始めようとして

いたときに、横浜市は地方分権を進めることによって都市としてどういうメリットがあって、どういうデメリットがあるというようなことを市民向けにアピールした時期があったかと思います。そのときにいろいろな広報媒体、ポスターだとかパンフレットだとかいろいろつくったと思うのですけれども、私が受けた印象としては、抽象的な表現が非常に多かったような気がするのです。地方分権をするということは、どういうメリットが横浜市にあって、この都市がどういうふうに変わっていくのか。こういうような具体的な市民に直接わかるような表現方法というのが少し薄かったような、具体的に当時どういうふうになるかというのはだれもわからなかった時期ですから、あまり表現しづらいというところもあったと思うのですけれども、市民から見るとわかりづらかったかなという思いを私は持っています。

今回、市民向けにどういうアピールしていくかという、どう示していくかということだと思うのですけれども、全体の文章は非常に大ざっぱであったとしても、やはり具体的な表現が伴っていないと、市民感覚としてぴんとこないです。ですから、それは補完する媒体でそれを補完していくのか、それとももとの文章に具体的な表現を盛り込んでいくのかというようなことになるのではないかと思います。

【部会長】 わかりました。それはこれからの議論次第でどういう扱いをするかということ、いろいろ可能性があるというご意見ですね。ありがとうございます。

【委員】 順序不同になりますが、起草委員会でお出しいただきまして、さっき明石委員長もお話しいただきました外国人労働者の問題あるいは定年退職者の問題、これは非常に大事なことだと思います。外国人労働者の問題は、ブルーカラーの人たちも受け入れるというか、そうした人たちへの対応が熱心な都市にならないといけないと思います。退職者の問題も、高齢者も楽しく豊かに、それから妊娠中の人、あるいは結婚して子供をつくりたい人が子供を産めるような都市とか、そういう観点を今の退職労働者の問題の中で、すべての人がということの具体的な例として、5か年計画でもよろしいと思いますが、どういう表現かで書く必要があると思います。その1つの大きな象徴が外国人労働者の問題だと私は思います。

それから、アジアという言葉が1カ所しか書いていないです。国際の問題でアジアというのは1カ所しか書いていないのですが、横浜市はこの一定の期間内で、世界の皆さんと仲よくするのは大事でありますけれども、アジアは特に親しくしていかなければいけない先であるということは宣言できないのでしょうか。この長期ビジョンで宣言できないので

しょうか。そういうことで一番大事にするのは、私は人を差別しないこと。そうしないとアジアの皆さんとは決して親しくなれない。差別はしない。共々にということを本気で思う都市にしないといけないと思います。アジアということは大事だと思いますので、私は何らかの形でもう少し表現をしていただきたい。

もう一つ、企業のこと、別添資料の8ページの概要図のところ、2番目の横浜のアピールの中に「ものづくり 科学技術」とございます。これは「ものづくり 科学技術」だけですと勘違いをなさると思います。ものづくりというのは、これは工場とかそういうふうにとられますが、この技術力というのが大事なことは間違いなのですが、ものづくりを外して技術力と書いたほうがいいのかもありません。技術問題だと思います。ものづくりというのは、必ずしも横浜の個性ではないと思います。

もしやっただけならば、私は「価値創造型の企業」、価値を創造する企業、その横に「スタンダード型企業の認定」という言葉がございまして、括弧して「社会貢献や横浜らしさ」と書いてございます。それから次のページに「市民が参加意識を持ち」というところがございまして、その中で企業はCSRの視点での地域社会への積極参加ということがございまして、これはやぶさかでないと思いますが、世界に挑む問題についても技術とか価値を創造するという関係で、横浜の企業が頑張りますという表現のほうがいいのかと思います。

【部会長】 アジアの議論がありましたが、起草委員会で私のほうからアジアの議論が第2部会に出ているということをお願いしたところ、起草委員長は、アジア・太平洋だろうという意見がございました。

【委員】 お聞きしております。それはそうなのです。間違いなくアジア・太平洋地域を考えることは大切です。しかし、今、私が申し上げたのは、アジアを何かの形で、横浜が強調する。それはさっき長期ビジョンを外国語で訳すというお話や、国際的にメッセージを出すというお話がありました。横浜はアジアの人たちと仲よくやりますというメッセージはアジアの皆さんにとって非常に大事なことはないか。国にとっても大事ですし、これから30年の間に非常に大事で、アメリカと仲よくするのはこれはよろしいことだと思いますが、それは書いてあればいい。だから、書いてあったほうがいいのかと思いますが、アジアという言葉はどうやって表現するかということがメッセージとして私は非常に大事なメッセージだと思います。

【部会長】 その辺どうですか。

【委員】 アジア・太平洋も正しいし、その中でもアジアというのを特に強調する。アジア及び太平洋とか、いろいろな表現の仕方はあると思います。それはぜひ私も大切なことだと思っています。

もう一つ、今おっしゃったこととの関連の中で、起草委員会における論点など云々、深めるべき視点の一番下の株主という言葉が気になるのです。株主という言い方がいいか悪いかは別の話ですが、いわゆる地方自治体というか、自治は行政だけが役割があるのではない。企業も市民も、言いかえればローカルガバナンスというのは、市民と企業と行政が3つというか、4つというか、いろいろなところが一緒に主体的にかかわっているのだというところがはっきりしないといけないと思います。これは顧客でなくて株主というのは飛躍した言い方ですから、多分そういう言い方だと思います。言いかえれば、統治のための自分たちも主体的に参加しかかわっているのだ。だから、企業も今おっしゃったように企業という立場でローカルガバナンスにかかわっているのだ。そして、当然、税を受けている行政もそこにかかわっているのだ。私たちは長い間、行政だけがお上とし、ガバナンスをつかさどっているというふうに思ったけれども、そうでない時代がもう来始めているという意味においては、長期ビジョンの中に何らかの形で、ともにいろいろな形で主体的にかかわってつくっていく地方自治、そういう横浜の都市であるということがうたわれると、もっとはっきりするのではないかと思うのですけれども。

【部会長】 株主というのは、株を持っている限りにおいて責任を持つわけですから、ちょっと表現がどうかなという感じがしますので、今、委員がおっしゃったとおりだと思います。

【委員】 私たちの横浜なので、市民としてということです。株主よりはいいかもしれないですね。株主はちょっと。ステークホルダーとさっき英語でおっしゃっていましたが、これは意味が違うのではないかと思います。

【部会長】 起草委員会でも申し上げさせていただきます。

【委員】 都市の農業についてですが、「農地を農業機能だけでなく、環境への寄与など様々な機能を活用」という表現をしていただいておりますが、これだとなかなか横浜の都市農業を横浜の財産として維持・発展させたいということには感じられない。何かいい方法でもう少し財産として残していきたいというような言い回しをしていただけないだろうかと思います。

【部会長】 ご意見は、農業としての生産機能は非常に重要であるという表現とあわせて

環境に寄与するという表現をしないといけないということですね。

【委員】 はい。両面が必要だと思います。

【部会長】 そういうご意見として承っておきます。

【委員】 ぜひそういう両面をお願いします。あくまでも環境のためだけに残しておくのではないというようなことにしてください。現在の横浜市の基本構想の中にも、農業を育てようなどという文章はないのです。その結果、どんどん減少してきてしまったのではないかと思います。あくまでも農地は公共用地の予備軍だというとらえ方にならないようにお願いします。

【委員】 まさにおっしゃるとおりでして、今度、私の地元も農地をつぶして公園をつくらうとしています。前にいただいた資料の市内の食糧自給率なども、ものすごく低いです。これはやはり人が生きていく上でものすごく大切な問題ですから、横浜市内での食糧生産という問題も大きく位置づけていただきたいと思います。

【委員】 その点、よろしくをお願いします。

【委員】 もっと都市と都市の協力という表現を入れていただきたいと思います。横浜は、アジア太平洋都市間協力ネットワーク（シティネット）の中で、自治体レベル、海外自治体レベルの援助をしていますが、ほかの町、日本の国内、日本の町ではやっていません。都市と都市のあらゆる側面の協力が重要だと思います。

【部会長】 昔から横浜市はいろいろ技術協力などはやってはいるそうですけれども、先日、担当の方に聞いたら、1960年代からやっていることを延々とやっていて、新しく今のような協力が十分認識されていない。これまでやってきた技術協力、都市間協力和、これからやるべき都市間協力をしっかり認識して考えていくべきではないかというご意見を申し上げました。新しい協力のあり方をもう少し考えていかなければいけない、そういうことですね。

【委員】 前々回から何度かお話しさせていただきましたが、青年会議所のほうで都市間FTAという構想があるわけですが、それもまさに都市間で協調していこうというものです。いろいろな都市の中で、ある意味では国家レベルを超えた部分で協調していく部分であったりとか、一緒に進めていくことが必要なのかなと思います。極端に言ってしまうと、横浜は、国防以外は日本から独立してもいつでもできるというぐらいの意気込みで、長期計画をつくってみるのも1つなのかなというような気がします。

実際に横浜ぐらいの都市になりますと、横浜市だけのGDPやGNPとかでも、世界の

中で何番目の国家になるというような話も聞きます。そういう中で、今、国がやっている分野でも、どんどん地方に分権されてきて、我々が思ってもいないようなことまでも、横浜市ができることが、まだこれから出てくると思うのです。そういうことも見据えた中で、20年後を見据えた長期ビジョンを考えていかなければいけないでしょうし、考えていく必要もあると思います。また、その中で世界のいろいろな都市との協調、競争の中での協調というようなことも、必要ではないかなと思います。資料の3-⑤の中に「他都市と連携しながら広域的な課題の解決に主体的に取り組む都市」という表現がされていますけれども、これはどちらかという国内の近隣の都市と連携して広域的な課題の解決に取り組むということだと思いますが、「海外の諸都市とも連携をしながらさまざまな先進的な課題の解決に取り組む」とか、そんな表現の1つのセンテンスというようなものがあったもいいのではないかなと思います。

【部会長】 ありがとうございます。

【委員】 環境行動のところが、やはりこれでは寂し過ぎるという感じがします。前回も申し上げた「あらゆる環境に関する情報の発信や人が集う環境の港」というような形で、ここに情報の発信や行動、それも発信していくような場としての横浜というイメージを入れていただければと思いました。

起草委員会における論点のところ、いわゆる大学や研究機関の知的センターとの協働、集積というのがありますが、そういうところも含めて環境技術とかあるいは行動を、環境倫理も含めて、横浜がある意味での発信基地であるということがこの中に入ってくるというかなと思います。

それから、2-⑤のところには「市民や企業が」と書いてありますが、まさに主体が協働でこういう都市をつくっていくというところですので、ここに行政も入ってこないといけないのではないかなと思いました。

【部会長】 ありがとうございます。

【委員】 今のお話との関連の中で、国際機関とかあるいは都市間という行政間の協力はとても必要なことです。もう一つ重要なことは、横浜らしさという意味においてはNGOではないかなと思います。世界的なNGOが横浜に集積して、それが情報を発信したり受けたりしていると。この都市の中で、市民、いわゆる横浜市民という意味ではなくて、世界的な市民団体がここに集積をするということはとても重要なことだと思います。例えば、栃木県的那須というところに私たちの先輩がアジア学院というのをつくっております。も

う35年ぐらい前につくっております。那須で基督教の団体がつくった小さなものですけれども、わずか40人ぐらいの農村で、アフリカとかアジアからの実習生がずっと来続けています。これがあの地域に非常に大きな影響を及ぼしているということです。これは小さな小さな種ですが、すごいです。私などは例えば横浜にそういうアジア、アフリカの農業指導者が一緒に集って、新しい農業のあり方を勉強するようなインスティテュート（機関）ができるとか、あるいは国境なき医師団とかそのほかのいろいろなNGOが横浜に集積するといいいのではないかと思います。そういう意味において、NGOが集積する町とか、あるいは横浜市内で、そういう国際協力学のようなものを、知的な立場で全国あるいは世界に先駆けて研究する機関があるとか、そういうソフトパワーを仕掛けるということも、必要ではないかと思います。長期ビジョンの中に入るかどうかは別として、「情報化の進展と市民生活について」とか、あるいはそのほかの「知的な活動センター」云々ということの中に、グローバルな市民の協力団体とか機関などが集積できるという視点をどこかに置いておいていただいて、5か年計画の中にまた別途お取り上げいただくことがあればと思ひまして、一言申し上げました。

【部会長】 今の話は実は明石委員長が起草委員会の中で、海外で活躍した人が日本で帰ってきて活躍する場がなかなかない、ステータスの高い人たちについては外務省との関係でそういう協力ができるような体制をつくっているけれども、横浜はNGOも含めた組織などを活用して横浜らしいそういうものをつくったらどうかということをおっしゃっていました。

【委員】 JICAがありますね。そのJICAにいわゆる海外で協力した技術者のOBがいるのです。日本全国の中で神奈川県がそのOBが一番多いのです。時折、彼らが何かできないだろうかというようなお尋ねがあるのですが、そういうことも含めてグローバルな資源といいますか、人材といいますか、そういうものをもっと活用して生き生きとその人たちが活動できる、それこそ世界に発信したりアジアに発信したりできるということがソフトパワーとして備わっているのではないかと思います。

【委員】 横浜らしさ、アピールのいろいろな目標が出されているのですが、目標自体はすごく大きなものですね。国際人を育む、世界の人から選ばれる都市はすごくイメージ的な大きなもので、つかみどころがないという感じがしまして、それを改善する方法として2つのことを考えました。1つは、先ほど委員がおっしゃったようになるべく定量化や具体化できるところは具体化する。例えば、2-⑤の「地域から地球に広がる環境問題」の

項目については「新エネルギーの導入」というのが書いてあるのですが、新エネルギーという種類がたくさんありますが、横浜で多分風力をやろうと思っても無理だと思います。でも、太陽電池とかバイオマスはできると思いますので、ソーラーエネルギーとバイオマスから始まって新エネルギーを導入しましょうなど、具体的に書いたほうがいいのではないかと思います。また、「エコロジーとエコノミーの調和」よりは、これから横浜市内の1人当たりの緑地の面積は何%より下がらないようにとか、すべての区に緑化の事業をやりましょうとか、もう少し具体化したほうがいいのではないかと思います。

続きまして、目標を設定するよりは試みを設定したほうがいいのではないかと思います。その目標を目指したいろいろなトライアルとか試みをつくったほうがいいのではないかと思います。ですから、何でもやってみる都市、何でもやってみる行政とか市民という精神を評価したほうがいいのではないかと思います。

もう一つは、最終的な読者の横浜改善への責任や参加を引き出すように、率直と謙虚な口調で書いたほうがいいと思います。言葉を言い換えますと、企業と政治家の公式報告でよく見られるうわべの約束と目的に対して、大衆が興味を持たなくなります。このような状態を避けるため、長期ビジョンで『横浜は完璧なものではない』や『横浜はさまざまな深刻な問題に取り組んでいるが、解決するように努力しています！』、という、読者とざっくばらんな対話した態度ですと、長期ビジョンはもっと有効になると思います。

【部会長】 事務局にお聞きしたいのですが、これは我々が審議会で議論するものと、最終的に議会で議決するものは違うのですか。別スタイルですか。同じでなければいけないのですか。その辺がよくわからないのです。

市民に考えてもらいたいとか、そういう言葉をこの中に入れて、我々の審議会ではこう考えるということを市民に発信するために表現して、情報として出す。しかし実際に議決するものはその部分は抜けているというようなそういう形がとれるのかどうか。

【事務局】 議決は基本的には構想部分の文字だけになります。

【部会長】 形態は当然違っていいわけですね。

【事務局】 はい。さまざまな意見とか提案を含めた記録はきちっと残しますし、それは先ほど言いましたように次の5か年計画等でも使っていきたいと思っております。

【部会長】 わかりました。

それでは、時間が大分延びましたのでこの辺で終わりたいと思いますが、事務局から何かございますか。

【事務局】 次回の日程につきまして、資料14ページをご覧ください。資料の14ページ、資料6「今後の審議日程について」という資料をおつけしております。そこにございますとおり、第5回の第2部会につきましては、平成17年11月8日火曜日、午後2時から4時ということで開催させていただきたいと思ひます。場所等につきましては別途通知をさせていただきますのでよろしくお願ひいたします。それから、一番上に総会とございますが、総会につきましては12月6日、これも2時から4時ということで、こちらも予定しておりますので、あわせてよろしくお願ひいたします。

【部会長】 それでは、次回、第2部会にご参加いただきご議論いただきたいと思ひます。活発なご意見、どうもありがとうございました。

— 了 —